

入選

店員さんの一言

岡山県 水島中学校 二年
島中 楓

私は部活動をしているので、夏休みは一日練習が多い。一日練習の日は、よく近くのコンビニで昼食を買ってから学校に行く。

これは、部活動に行く前にコンビニに寄って、昼食を買ったときのこと。その日は日差しが照りつけていて、セミの大合唱がうっとうしかった。何をやるにしても、暑さのせいでやる気が出ないような日だった。昼食を買い、会計を済ませて店を出ようとしたとき、

「ありがとうございました。いってらっしゃい。」

と、店員さんに言われた。私は、

「ありがとうございます。いってきます。」

と言って、店を出た。店員さんに言われた一言が、私は嬉しかった。暑さなんかすっかり忘れて、さわやかな気持ちになった。パワーをもらえた気がして、今日もがんばろうと思えた。自転車に乗ったとき、つい、「ええ人やったなあ。」とつぶやいた。その日は、一日気持ちよく過ごせた。

別の日、この日は祖母に送ってもらう途中にコンビニに寄って、昼食を買った。いつも通り会計を済ませると、店員さんに、

「ありがとうございました。暑いので、気をつけてくださいね。」

と言われた。学校に行く途中の車内で、祖母が、

「優しい人やったな。あんなこと言われたら、元気がでるな。」

と言った。確かに、私もそう感じた。コンビニの店員さんは、「いってらっしゃい」や、「気をつけて」の言葉をかけられる、すてきな人だと思う。店員さんにそういった言葉をかけてもらったとき、私の目には店員さんが輝いて見えた。

私が小学生のときに、小学校の先生からこのような話を聞いたことがある。

「笑顔で元気にあいさつされると、相手も自分も自然と笑顔になるし、元気が出てきて一日を気持ちよく過ごせるから、あいさつをするっていいことだよ。」

私はこの先生の言葉を、初めて実感できた。あいさつをするということは、とても素晴らしいことだと思う。

私は、優しさのある言葉やあいさつには、不思議な力があると思う。どれだけ落ち込んでいても、疲れていても、優しい言葉をかけてもらったり、笑顔であいさつをしてもらったりすると温かい気持ちになって、気分が晴れる。

あいさつや優しい言葉をかけることは、大切なことだと思う。私も笑顔であいさつをしたり、人に寄り添えるような言葉をかけたりして、自分も周りの人も温かい気持ちにできる優しい人になりたい。